



院長就任のご挨拶

院長 岡田 裕之

私はこのたび佐藤四三前院長（現統括管理監）の後を引き継ぎ、4月より当院の院長を拝命いたしました。明治41年（1908年）創立、110年を超える歴史と伝統を持つ姫路赤十字病院の院長就任にあたり改めて身の引き締まる思いでございます。

前職は岡山大学病院で専門は消化器内科です。おもに食道・胃・腸疾患の診断と治療に携わってきました。また、内視鏡による早期癌の発見や切除にも関わってきました。一方でヘリコバクター・ピロリ感染と胃炎、胃癌、消化管リンパ腫との関連等々の研究も行ってきました。

私は地元姫路出身ですが、姫路赤十字病院で7年前まで約9年間、月1回内視鏡検査のお手伝いをさせていただいていた以外は姫路で勤務をしたことがなく、今回、郷里の姫路で勤務できることを緊張感とともに大変嬉しく思っております。

姫路赤十字病院はその長い歴史の中で地域に寄り添い、信頼されながら地域とともに発展してきた病院です。その役割は以下の通りです。

① 高度急性期・急性期病院として

救急や手術などを中心とした医療の実践を担っていく必要があります。質の高い医療の実践のためには医療者個人の高いスキルに加えて、職種および診療科を超えたチーム医療が必要です。医療職間の固い絆を保ち、患者安全や危機管理能力を高めていくことが重要です。さらに疾患群によるセンター化が推進されていますので、それを最大限に活用して迅速かつ的確なチーム医療を実践していきます。

② 地域がん診療連携拠点病院（高度型）として

内視鏡治療、薬物療法、放射線治療、そしてロボット支援手術も含めた手術療法など先進的ながん治療を積極的に推進していきます。また、緩和ケアの充実、在宅医療の支援を行っています。

③ がんゲノム医療連携病院として

がんの標準治療が困難な場合に、がんの原因となっているゲノム（遺伝子などの遺伝情報）異常を調べ、その異常に対して効果のある薬剤を見つけて患者さん毎の個別化治療に向けて情報提供が行えるように努めていきます。

④ 総合周産期母子医療センターとして

中・西播地域唯一の総合周産期母子医療センターとしてハイリスクの妊婦さん、赤ちゃんの安全を守っていきます。

⑤ 地域医療支援病院として

地域の医療機関との機能・役割分担を積極的に進めるために、地域医療連携室が積極的に活動して急性期～回復期～維持期まで切れ目のない連携医療が迅速、円滑に行えるようにしています。

佐藤四三前院長の強力なリーダーシップのもと実践されてきたこれらの役割を病院スタッフ全員で一致団結して、さらに充実、発展させてまいります。

治療にあたっては「自分が患者だったら、自分の家族が患者だったらどうするか」を判断の礎にして臨みたいと思います。

そして当院の基本理念である「心のかよう安全で良質の医療」を実践するように頑張ります。よろしくお願ひ申し上げます。

統括管理監就任のご挨拶

統括管理監 佐藤 四三

わたしは新たに統括管理監に就任しました。日本は世界に先駆けて少子高齢社会、人口減少、労働者人口の減少を迎えており、社会は大きく変化しています。新型コロナウイルス感染症を経験し社会はもとより、令和4年4月は医療界も医療提供体制が目に見えて大きく変わる変換点になります。医療機関が機能分化、連携をより密にし、地域が一体となり住民に安心な医療を提供することになります。

地域住民からみて、わたしたちの病院が的確に変化し、地域医療機関と的確に連携することが住民に安心して医療を受けて頂くことに繋がります。姫路赤十字病院は新たな医療提供体制に積極的に参加します。これからの医療では、住民そして地域医療機関に寄り添った体制にスピード感をもって変化することが重要と考えます。患者さんの要望、地域医療機関の意見などを最も把握しているのは現場の職員です。この体制に即応しているか、患者さんの要望、地域医療機関の意見などを最も把握しているのも現場の職員です。統括管理監には現場から病院機能を見守る役割があります。病院長の経験を活かして現場職員とともに、住民・地域医療機関・病院が一体となった改善に取り組み、より良い医療提供に努めます。よろしくお願ひします。



採血室が新しくなりました

令和4年1月4日より中央検査室受付に採血・採尿自動受付機が新しく設置され、多くの方は有人受付を通らずにスピーディーに受付ができ、40席を備えた明るい待合スペースでゆったりお待ちいただけるようになりました。また、待合スペースの大型モニターには待ち人数や待ち時間が表示され、採血室へのお呼び出しはモニター表示と自動音声案内にてプライバシーに配慮し、受付番号で行われます。お呼び出しがかりましたら採血室へお進み頂き、呼び出し番号が表示された採血台までお願いします。

採血台も新しくなり、荷物置きや転倒防止のための手すりが装備され安全に移動して頂けるようになりました。採血室も明るく広くなったように感じられます。

また、新規に導入した採血システムに、患者さまの採血に関する情報（採血部位、採血条件、難易度など）を登録し、採血者が事前に情報を得ることで、再採血、採血による合併症（気分不良や痛み、痺れなど）を減らし、採血時間の短縮に努めます。

これからもスタッフ一同「患者さまに信頼して頂ける採血室、待ち時間短縮による患者満足度向上」を目指して取り組んで参りますので、よろしくお願ひいたします。

検査技術部 検体検査第二課長 古川 恵子



採血・採尿検査の自動受付機



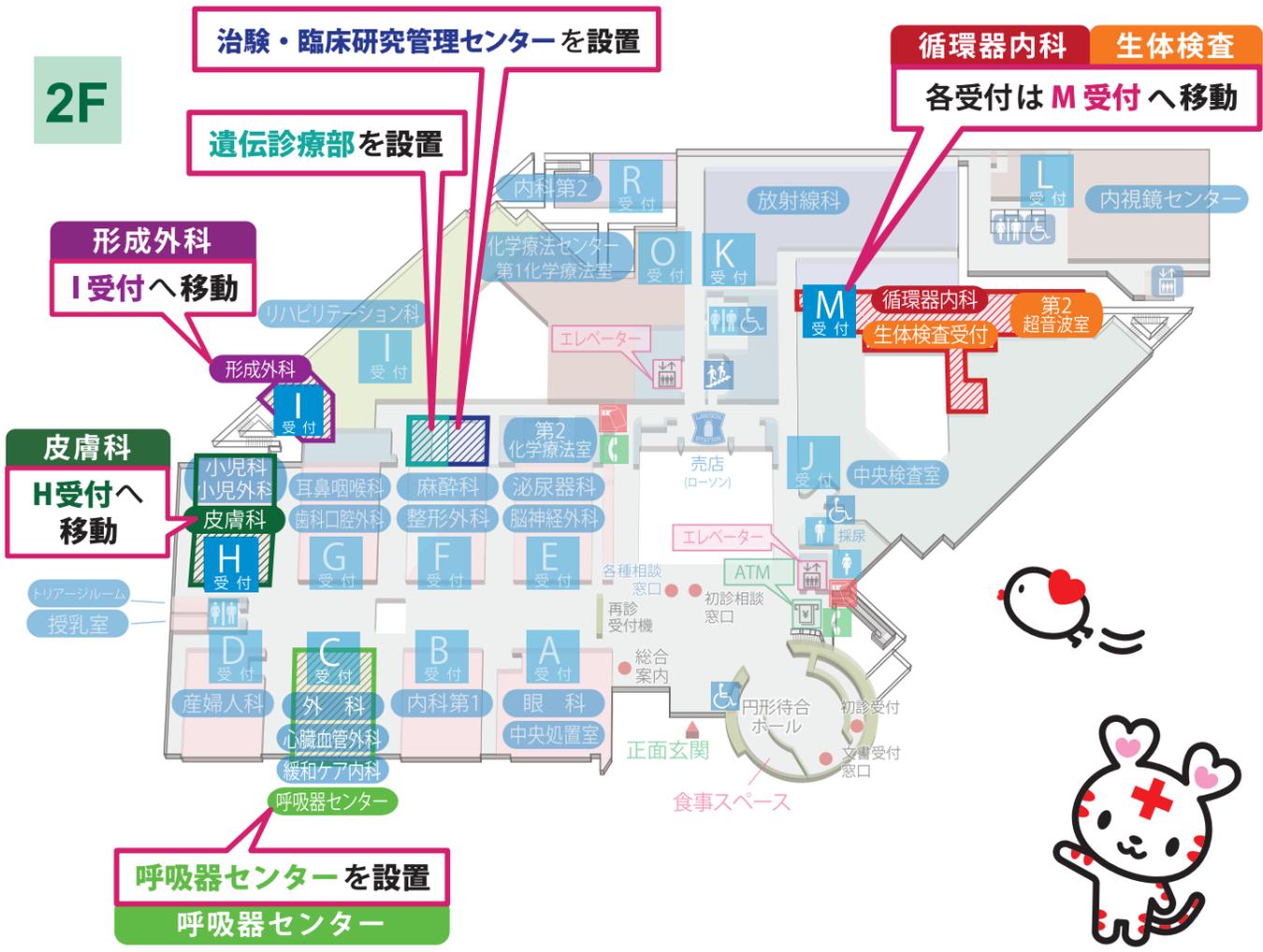
採血検査待合スペース



採血室内

外来診察室の移動と治験・臨床研究管理センター及び遺伝診療部の設置について

令和3年9月から施工しておりました外来の改修工事を終え、下図のとおり診療を開始しています。工事の為、待合スペースの縮小、騒音、振動など大変ご迷惑をおかけいたしました。長期にわたり、ご協力いただきありがとうございました。



院内講座のご案内

※新型コロナウイルス感染症対策のため集合形式での開催を中止しております。

健康増進講座 「オーラルフレイルについて」

動画配信していますので、ぜひご覧ください。
 患者さんや一般の方を対象に、健康増進や疾病予防を目的として、比較的高関心度が高い病気や症状などについてご紹介しています。
<https://www.youtube.com/watch?v=6hqrcCLuQ4I&t=30s>

QRコードからもご覧いただけます

COVER PHOTO 今号の表紙

検査技術部の「さわやかさん」たち

PCR検査も担当しています!



検査技術部

検査技術部は、53名で業務を行っています。臨床検査技師と一言で言ってもその業務は様々で、検体検査（生化学検査・血液検査・尿検査など）・細菌検査・病理検査・生体検査・輸血検査・採血業務など多岐にわたります。あの新型コロナウイルスで有名になったPCR検査を担っているのも臨床検査技師です。

また当院検査室は、2019年にISO 15189と言われる国際規格を取得しました。取得後も業務の標準化や、インシデントレポートの共有など検査の質の向上に励んでいます。最近では、採血システム導入による採血室受付の自動化、検査機器の大幅な変更、生体検査室の移設・窓口新設など大きな変更を行いました。最初は戸惑われるかと思いますが、ご不安な際は近くのスタッフにお声がけ下さい。

これからも日々、医療技術の発展・検査の高度化が進む中で、病気の早期発見・早期治療のため、知識・技術向上に勤めていきたいと思っています。

臨床検査技師 佐竹 郁哉

検査技術部のお仕事

- 【細菌検査】**
患者様から採取した尿・喀痰・血液などを使って感染症の原因となる微生物を調べています。
昨年から入院時におけるコロナウイルスのPCR検査も行っています。
- 【輸血検査】**
輸血前の検査や輸血用血液の保管・管理を行っています。
輸血前の検査では血液型検査、不規則抗体検査などを行っており、患者様に「合う」血液かどうかを調べています。
- 【検体検査】**
タンパク質、糖質、脂質、電解質、酵素等を測定する生化学検査、腫瘍マーカーやホルモン、感染症等を測定する免疫検査、白血球・赤血球数などを測定する血液検査などがあり、血液や尿、体液を用いて検査を行っています。
- 【病理検査】**
患者様から採取された組織や細胞について病理標本を作製し、顕微鏡で観察することにより様々な病態を検査しています。近年は遺伝子解析関連（ゲノム検査）も取り扱うようになっています。
- 【生体検査】**
心電図・肺機能・エコー・脳波などを行っています。
患者様との会話を交えながら安心して検査を受けて頂けるよう努めています。



細菌検査



輸血検査



検体検査



病理検査



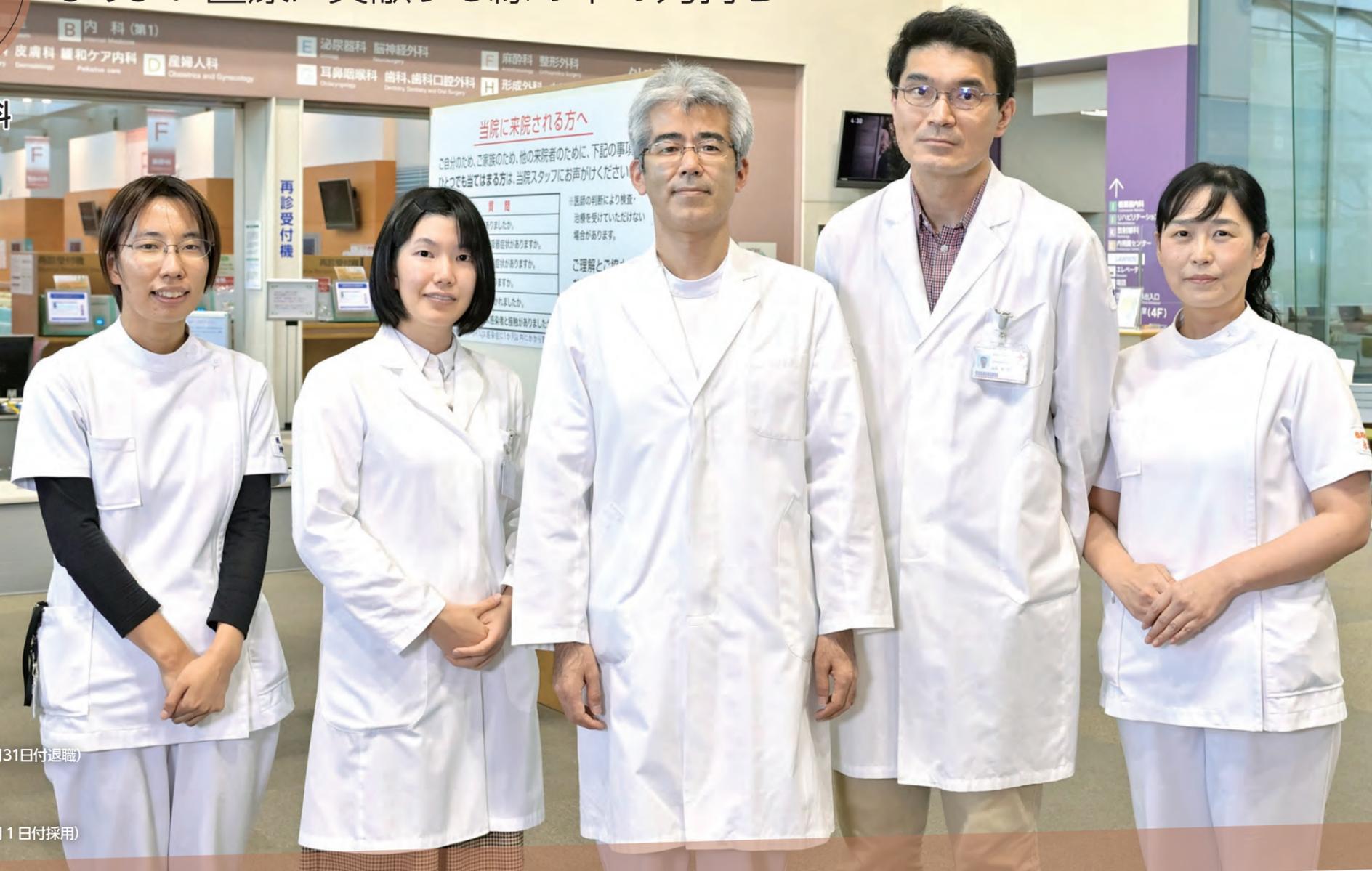
生体検査

診療科のご紹介

よりよい医療に貢献する縁の下の力持ち

病理診断科

- 病理診断科 右から
- ながたに たみ
がんゲノム検査係長
 - ふしみ そういちろう
伏見 聡一郎
病理診断科部長職務代理
 - わに ようじ
和仁 洋治
臨床検査科部長
 - きむら しょうか
木村 祥佳
医師
 - かまうち みなみ
垣内 美波 (3月31日付退職)
専攻医
 - ふじい ひろき
藤井 裕生 (4月1日付採用)
専攻医



姫路赤十字病院を受診される皆様へ / かかりつけ医をもちましょう

かかりつけ医とは、日常的な健康管理や風邪をひいた時、あるいは体調などに不安を感じた時、慢性期の継続的な治療が必要な時にかかる診療所や医院の医師のことです。入院や専門的な治療が必要な時には、かかりつけ医からのFAX紹介で大きな病院にかかりましょう。



姫路赤十字病院は、「地域医療支援病院」です。

地域医療支援病院とは？

紹介患者中心の医療を提供し、病状が安定した患者さんはかかりつけ医へ逆紹介し、切れ目のない医療の提供を行います。また、救急医療・地域医療の中核を担う体制を整えた病院が「地域医療支援病院」として各都道府県知事より承認を受けております。



正面玄関入って左手に「かかりつけ医の紹介」ブースを設けています。姫路市内の医療機関については、姫路市医師会のホームページから検索して印刷できるようパソコン

を設置しています。姫路市以外の医療機関については、リーフレットを置いてありますので自由にお取りください。また、「かかりつけ医」のご相談にも応じています。

姫路赤十字病院 地域医療連携室

TEL:079-294-2251 (代)

「切除断端に癌（がん）はありません」と緊迫した声で電話。

テレビドラマの手術などで、このような場面をご覧になったことがあるでしょうか。声の主は、われわれ病理医です。

病理診断科は、患者さんに直接お会いすることのない診療科ですが、患者さんから取られた組織や細胞そのものを調べて病気を診断しています。小さなものは目では見えないので、拡大して観察する顕微鏡はなくてはなりません。全身のあらゆる臓器の、ありとあらゆる病気の診断に関わっています。その

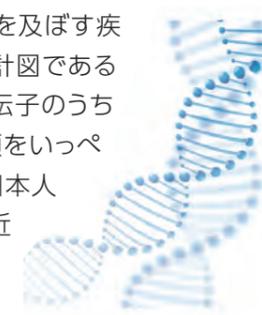
結果により、治療の方針に大きく影響することもあり、最善をつくるために姫路赤十字病院では、臨床検査科と協力して4名の体制で取り組んでいます。

通常の病理診断は、冒頭の術中迅速診断とは異なり、少し工程に時間をかけて行われます。手術や外来検査で「〇日後に結果を説明します」となることがあります。そういう場合には縁の下の力持ち（裏方）として、病理医が活躍しています。

ほかにも分子生物学的な検査（コラム参照）や、病理解剖などでも、よりよい医療のために貢献しています。

＜がんゲノム検査＞

がんとは私たちの体を構成する細胞が際限なく増殖し、身体に悪影響を及ぼす疾患です。正常な細胞ががん細胞になってしまう原因は、私たちの体の設計図である「遺伝子」の変化（変異）です。「がんゲノム検査」は、がんに関する遺伝子のうち治療薬の効果に関連するもの、診断や予後に関連するものなど数百種類をいっぺんに調べる検査で治療、診断に役立てることを目的として行われます。日本人の2人に1人が一生涯でがん罹患するこの時代、ますます私たちの身近になっていくものと考えられます。地域がん診療連携拠点病院である当院でも多くのがんゲノム検査が行われています。



+ 外来部門・入院部門 患者満足度調査ご報告

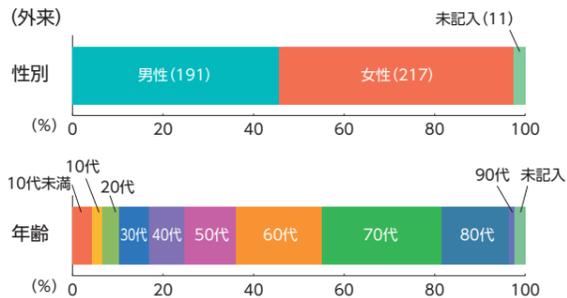
令和3年10月に患者満足度調査を実施しました。ご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。ここに調査結果を報告いたします。ホスピタリティ向上委員会 委員長 森井 和彦



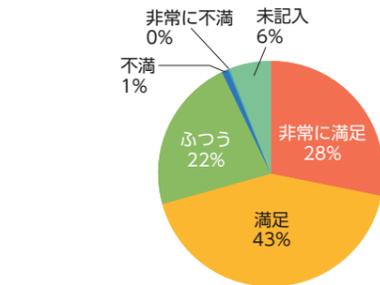
外来部門 (令和3年10月4日・8日)

配布数 570枚 回収数 419枚

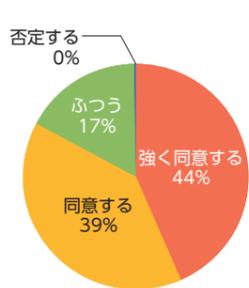
回答者について



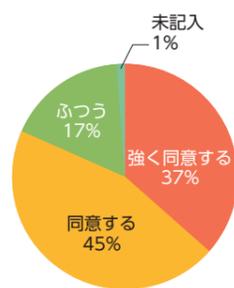
当院を受診してどう感じましたか



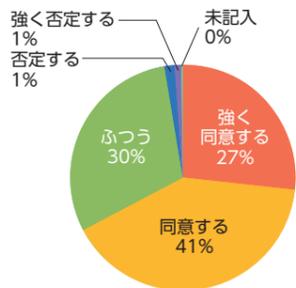
丁寧にまた、誠意をもってあなたに接してくれましたか (医師)



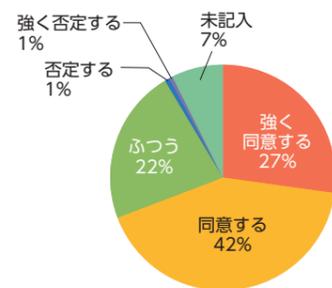
丁寧にまた、誠意をもってあなたに接してくれましたか (看護師)



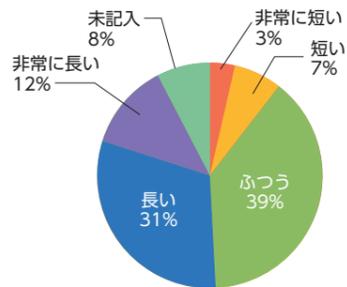
丁寧にまた、誠意をもってあなたに接してくれましたか (事務)



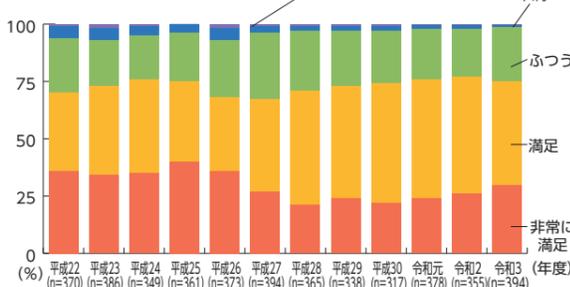
安全に医療サービスが行われていると感じましたか



待ち時間についてどう感じますか



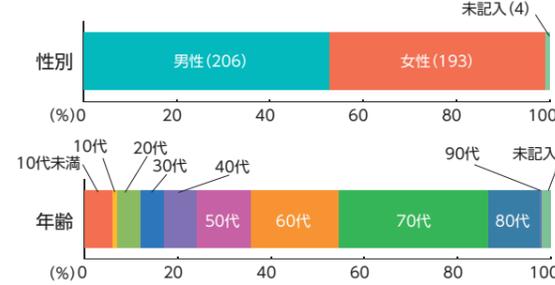
総合満足度年次推移



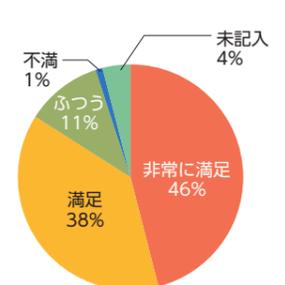
入院部門 (令和3年10月4日~15日)

配布数 510枚 回収数 403枚

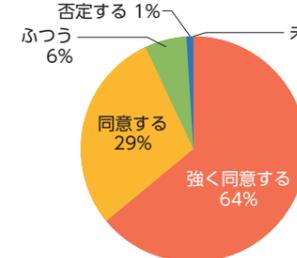
回答者について



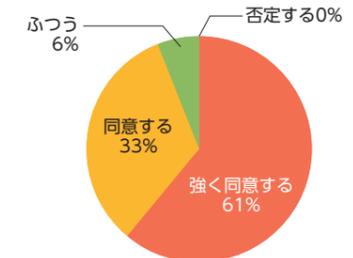
当院に入院してどう感じましたか



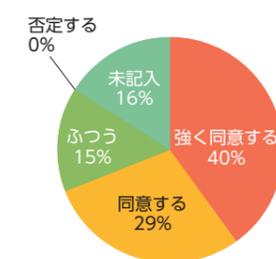
丁寧に、また誠意をもってあなたに接してくれましたか (医師)



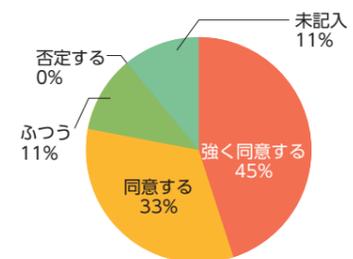
丁寧に、また誠意をもってあなたに接してくれましたか (看護師)



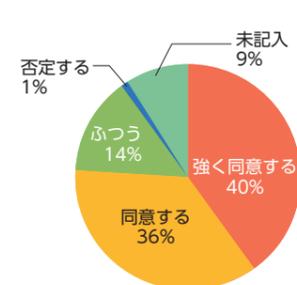
丁寧に、また誠意をもってあなたに接してくれましたか (薬剤師)



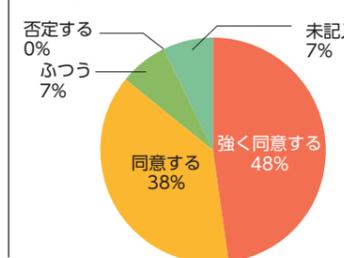
丁寧に、また誠意をもってあなたに接してくれましたか (看護助手)



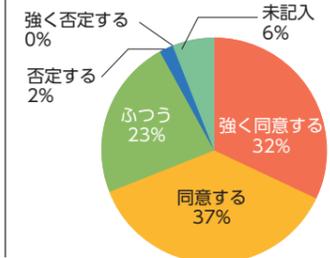
チーム医療を感じられましたか



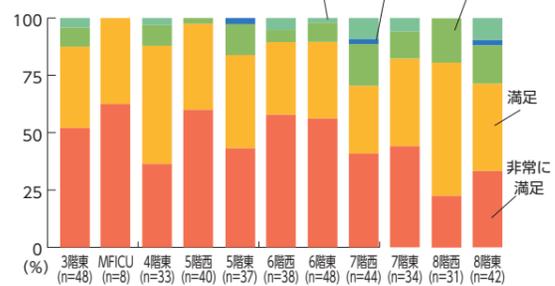
安全に医療サービスが行われていると感じましたか



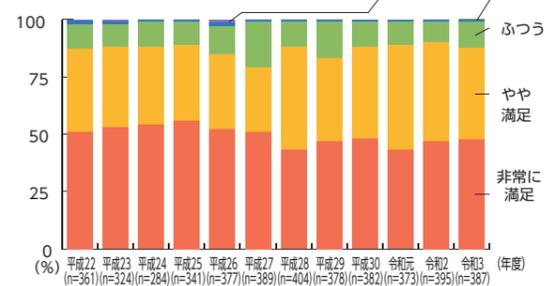
症状にあった食事が提供されていますか



病棟別満足度



総合満足度年次推移



ご協力いただき、まことにありがとうございました。

薬剤部だより

くすりの効き方

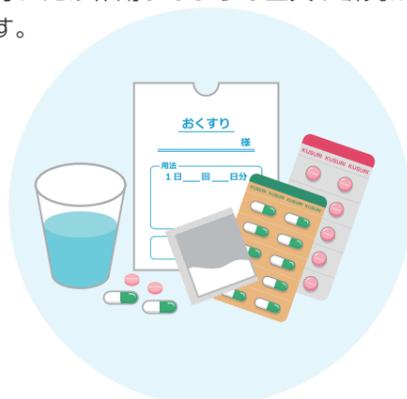
くすりと受容体

からだには、細胞に指令を伝える様々な伝達物質があり、それらが受容体と結合すると「〇〇しなさい」という指令が細胞に伝わります。薬はこの仕組みを利用しており、受容体に結合して体内に存在する伝達物質と同じ作用を示すものをアゴニスト（作動薬・刺激薬）といいます。一方、受容体に結合しても影響を与えないけれど、伝達物質やアゴニストの作用を阻害するものをアンタゴニスト（拮抗薬・遮断薬）といいます。

同じ受容体でも異なる場所に存在することで副作用が現れてしまうこともあります。例えば、花粉症の症状を抑えるためにも使用される抗ヒスタミン薬は、鼻水や目のかゆみを引き起こすヒスタミンを鼻や目の細胞にあるヒスタミン受容体に結合させないように邪魔をして症状を抑えます。ところが、脳の細胞にもヒスタミンは存在しています。覚醒や集中力アップにもヒ

薬剤部 病棟業務第二係長 山根 裕之

スタミンは必要ですので、脳でヒスタミンの作用が抑えられると眠気の副作用が生じてしまうのです。最近では脳に届きにくく工夫され眠気の副作用が起りにくい薬も出ています。抗ヒスタミン薬以外の薬でも必要な部分にだけ作用するような工夫や研究は進められています。



栄養課だより

ストレスを感じた時に

ストレス軽減に効果的な食べ物

栄養課 管理栄養士 元川 捺貴

新型コロナウイルスの感染拡大により、不安やストレスを感じる方も多いと思います。

今回は、ストレス軽減に効果的な栄養素について紹介します。

①ビタミンC

抗ストレスホルモンの合成に必要な栄養素です。ストレスを受けることで、体内に蓄えてあるビタミンCの量が減少してしまうため、意識的に補給することが大切です。

②ビタミンB群 (B1、B2、B6)

ビタミンB群は体内でエネルギー代謝において重要な役割を果たします。

不足すると疲労感が蓄積し、イライラする原因になります。

③カルシウム

神経伝達を正常に行い、精神を安定させる働きがあります。

不足しがちな栄養素であり、魚やきのこに含まれるビタミンDと一緒に摂取すると吸収がよくなります。

④ポリフェノール

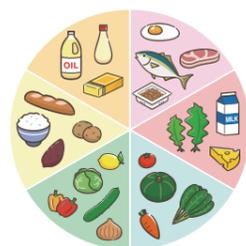
ストレスにより発生する活性酸素は、免疫機能の低下を引き起こします。

ポリフェノールには強い抗酸化作用があり、活性酸素を分解する働きがあるため積極的に摂取することが大切です。

*各栄養素を多く含む食材

ビタミンC	ブロッコリー 小松菜 ジャがいも みかん
ビタミンB1	豚肉 うなぎ まいたけ 大豆
ビタミンB2	レバー 卵 納豆 アーモンド
ビタミンB6	まぐろ かつお 鶏肉 にんにく
カルシウム	牛乳 乳製品 大豆製品 干しエビ
ポリフェノール	カカオ しょうが ブルーベリー コーヒー

上記の栄養素をバランスよく食事にとり入れ、心と体の栄養を補給することが大切です。



看護学校だより

患者さんのために学びを深める

「診療の補助技術」演習での動画の活用～主体的な学びとリフレクション～

看護専門学校 専任教師 八幡 宏美

2年生の「診療の補助技術」の講義では、法的立場をふまえて、患者が安全・安楽に診療が受けられるように援助する技術の基本と倫理的な態度について学びます。

経口と薬法、点眼法、直腸内与薬法などのグループに分かれシナリオを考え、援助の動画を撮影し、援助における注意点やポイントを、どう説明すれば患者さんの理解につながるかを考えて発表しました。ほとんどの学生がスマートフォンやパソコンといったICT端末を使用しており、動画の撮影や編集もスムーズに行えます。その強みを活かしながら主体的に援助技術が修得できるような講義をしています。

学生からは講義を通して「授業で習ったことを復習できた」「どのように与薬をするかが理解できた」という反応がありました。援助をするにあたり自ら学習し取り組むことができた結果だと思えます。

学生の主体的な学びを促せるような講義ができるよう日々私自身も研鑽したいと学生の姿を見て刺激を受けました。



患者の元に行く前に薬剤を確認しています



患者に薬剤を塗布する説明をしています



舌下錠とトロイチ錠の違いを模型で説明



相の会は、すべてのがん患者さんと家族が対象の患者会です。

「相の会」のはじまり

「がんを生き抜くためには、同じ体験をした人との交流が必要。同じ悩みを持つ仲間と集まり、わきあいあい(相相)と過ごし、気持ちを楽にしながらがんと共に生きる力を持ちましょう!と訴えかけた婦人科の患者さんの思いがはじまりです。

現在の「相の会」

平成15年に発足し、当初は婦人科の患者さんのみが対象でしたが、他科の女性患者さん、男性患者さんと少しずつ対象を拡大し、現在は当院への受診の有無に関係なく「すべてのがん患者さんとその家族」を対象としています。

病の体験から～ポエム「生きること」～

2022年2月現在、オミクロン株の影響により新型コロナ感染症の勢いが増しているため、当院のがんサロン相の会も、Web会議システムZoomを活用して、オンライン形式で開催を継続しています。

今回、オンラインになって初めて相の会に参加された方が、最初は「死にたい」と思うくらい混乱していた気持ちが、周囲の支えもあり、少しずつ「生きているんだ。」「(がんになっても)自分に変わりはないんだ。」と思えるようになったと話してくださいました。

そして、ご自分で作られたポエムを読んでもくださいました。



生きること あなたと同じ時間を刻むこと
 生きること あなたと同じ景色を見て「美しい」と感じる事
 生きること あなたと「幸せ」だと感じる事
 生きること あなたに愛されていること
 生きること あなたを愛すること
 生きること あなたの命を尊いと想うこと
 生きること あなたに私の命を尊いと想われていること
 愛こそすべて

ペンネーム：Donちゃん

ポエムを聴いて「思わず涙がこぼれた」「あたたかい気持ちになった」と参加されていた方も話されていました。相の会ではこれからも皆さんの参加をお待ちしております。

がん相談支援センター 井上 豊子

「相の会」についてのご相談、ご質問等は総合相談支援課(079-294-2251)または相談支援センターで受け付けています。お気軽にどうぞ。